

『I'mPOSSIBLE』 日本版活用事例(2019.9.30)

児童の自主性、アウトプットする機会を大切に

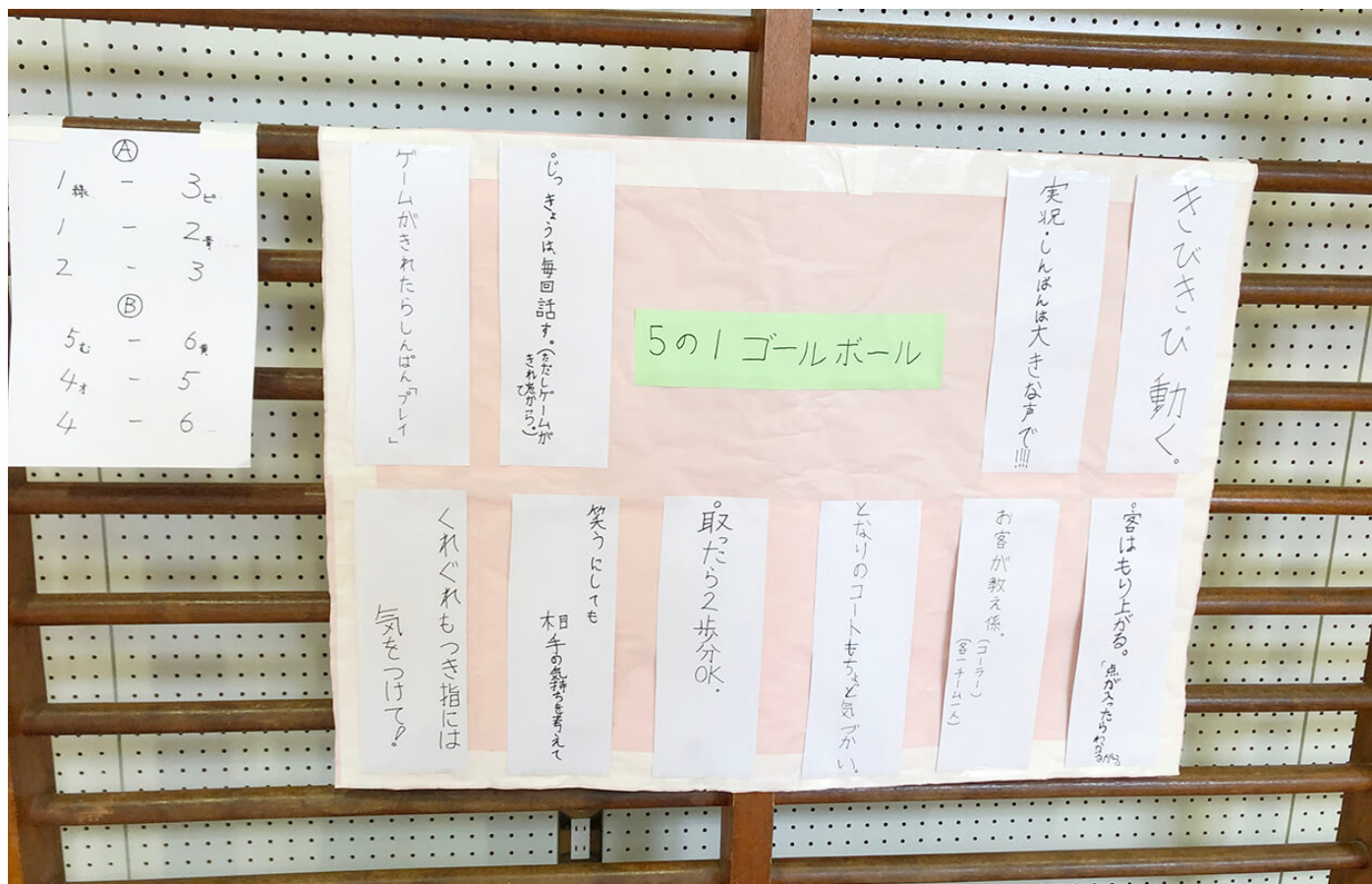
学校名：東久留米市立南町小学校

実施教材：総合的な学習の時間

使用ユニット：1-1 パラリンピックってなんだろう【座学】

2-2 シッティングバレーボールをやってみよう【実技】

2-3 ゴールボールをやってみよう【実技】



小学5年生の総合的な学習の時間の授業で『I'mPOSSIBLE』を活用しています。

はじめに1-1 パラリンピックってなんだろう（座学）を行った後、実技のシッティングバレーボールとゴールボールを行いました

ゴールボールは2時間を割り、1時間目はまずはゴールボールを体験、2時間目は、児童の自主性に任せつつ、1回目の経験から児童たちが自分で考えた工夫を実践させることをポイントにしました。今回紹介するのは、2時間目の模様です。

2時間目の試合に入る前に、1時間目でプレーしてどうだったか、チームで振り返った内容を貼った紙を全員で確認しました。プレーを円滑に進める上で、プレーする人以外がどうすればよいか、という視点の振り返りが多くあり、コミュニケーションをお互いによく取る意識をもって臨みました。ケガをしないように、ボールの受け

止め方は復習します。

試合は4分ハーフ・前後半で3試合を行いました。審判も児童に任せ、みんなで決めた役割分担で運営します。プレーヤーは目隠しをしているため、得点が決まった時に観客が声を出してゴールしたことが分かるように、審判やボールを拾う係の児童もプレーヤーに伝わるように声掛けをするなど、前回の振り返りからの工夫をしっかりと活かしていました。

最後はみんなで集まって振り返りです。手を挙げて感想を聞いてみると、「シュートが決まって気持ちよかった」「足で止めることができた」「選手みたいな投げ方をしていてすごかった」と、経験を積んでより上達したことで競技の面白さを存分に感じられたようです。

教室に戻ってから記入したワークシートにも、「アイマスクをしていると、ボールを誰かに渡そうとしてもわからない。見ていた人が声をかけてくれたからわかった」「声をかけながら協力してうまく進められた」といった感想があがりました。相手の立場を思いやって声をかけることやお互いに助け合うことの大切さに気づくことができたことが伺えました。

児童の自主性に任せ、児童がアウトプット・実践することを大切にすることで、ただ競技を知るだけに留まらず、相手の立場で考えることの大切さなど、共生社会につながる学びを得られる実技の授業になりました。